


## 2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 東浦町立緒川小学校 ] 担当教諭名 [ 國武 聖志朗 ] ( 6年 102名 )  
 相手国・地域 [ ベラルーシ ]  
 海外学校名 [ Gymnasium No.33, Minsk ] 担当教諭名 [ Darya Rybaltovskaya ]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アース ドリーム フューチャー ～夢に向かって羽ばたこう～	20
	英語	自己紹介をしよう	1

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	命からつながる夢や未来
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	一人一人がもっている命。その命を大切にしていくことが夢や未来につながっていく。 一人一人がもっているさまざまな夢。好きなことや興味をもっていること、人によって さまざまだが、その夢がこれから先の人生の目標になり、希望になる。 そして未来。みんなが平等で幸せな未来、世界の平和が続く未来、みんなが笑顔 で明るい未来、文化や伝統・歴史を受け継いでいく未来、自然が広がる豊かな緑が ある未来、人とのつながりを大切にしたい未来にしたい。 そんな未来に夢や希望をもっていけるようにしていきたい。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
自分が世界とつながっていることをこのプロジェクトで、感じる事ができた。世界には国ごとに人種や宗教、言語、文化、歴史などさまざまな違いがある。しかし、世界に生きる人々の思い描く未来は同じものであり、よりよい未来を目指しながら、生きていくことが大切だと感じる事ができた。	今回はベラルーシとの交流となった。日本と比べて、貧しい国はかわいそうという認識が子ども側にあった。貧しい=かわいそうではなく、貧しい環境でも人々は幸せに生きていることを子どもたちに感じてほしかったが、実感させることが難しかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
世界にはさまざまな国があり、国ごとにさまざまな文化がある。その文化は国の誇りであり、違う国だからといって否定せず、受け入れ、尊重すべきものだと思えるようになった。	相手国であるベラルーシのことを知るとともに、世界の人と子どもたちをつなげるためにはどんな手立てがあるのか考える事ができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	英語で自己紹介文づくり プレゼント作り	自分たちの作ったものがベラルーシに届き、ベラルーシからのメッセージが届くと喜んでいました。	英語
共有 テーマ学習	6月 ～ 10月	世界の国調べ 職業体験 日本の伝統・歴史を見つめる 自分の夢調べ	世界を知り、日本を見つめ直したことで世界の広さ、日本のすばらしさを再認識し、これからの未来を生きる私たちは何を大切に生きていくべきなのか考えることができた。	総合
融合 メッセージ作成	11月	アートマイルテーマ決め 相手校との意見交流	自分たちのテーマをただ押し付けるのではなく、相手国の思いも大切にしようとすることができた。	総合
創造 壁画制作	12月	アートマイル作製	自分たちのこめた思いがアートマイルに表れるように、一つ一つの色を丁寧に塗り、102人全員で完成させ、喜びを共有することができた。	総合
評価 振り返り 自己評価	2月	完成アートマイル鑑賞 プリントによる振り返り	日本とベラルーシ二つの国の思いが一つになり、感動していた。アートマイル学習を通して、世界とのつながりを実感していた。	総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	事前調べ学習をしっかりとしてから実物を見ることで、日本が今まで受け継いできた歴史や文化のすばらしさを実感することができたから。
異文化を理解する力	4	校外学習や調べ学習を通して、世界にはさまざまな国があり、国ごとに文化があることを知った。その国で生きる人の思いにも少し触れることができたよかった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	調べ学習で自分が必要としている情報を収集し、まとめて学年の仲間に発信することができた。世界に発信する視点を加えられたらよかった。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	自分たちが学習した英語が自己紹介カードを通して、ベラルーシに届いたとき、学んだことが活用されていると実感できた。もっと、子どもたちから「英語で話してみたい」といった思いが出るとよかった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	世界にはさまざまな文化があることを知ることができたが、比べる基準が日本側の視点に固執していたように感じる。もっとそれぞれの国に生きる人たちの思いに寄り添えることができればよかった。
主体的に考え行動する力	5	総合学習では、子どもの「やってみよう」という気持ちを一番大事にしてきた。すると、子どもたちから自然とやってみようが出てきて、実現することができた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	アートマイルのテーマを考える際、日本の思いだけを押し付けるのではなく、ベラルーシの思いも大切に、互いの思いをおりませたもの考えることができた。
思いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	壁画制作では、「命からつながる夢や未来」というテーマにこめた思いを形にしようと、一人一人が丁寧に色を塗っていた。完成したものを送る際にも、手紙を子どもたちに募ったところ、多くの子どもが自主的に手紙を書いてきた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	5	二つの国の思いが詰まったアートマイルを見ると、多くの子どもたちが感動していた。学習の振り返りにも多くの子どもが世界とのつながりを実感することができていた。